

# 国保料9.4%の値上げ

「政府の言いなりになるな」

和泉都議強く主張

11月29日、東京都国民健康保険運営協議会が行われ、和泉なおみ都議が都議会代表委員として出席しまし

た。

かねてより自公政権は、保険者である各区市町村が、国保料の値上げを抑えるために行っている一般会計からの繰り入れをやめるように要求してきました。当日、都が提出した資料によると、政府（厚労省）は、来年度は政府の要求どおりの一般会計からの繰り入れ削減予定（率）を達成していない区市町村には国の交付金の交付に際して「マイナス評価を導入する」、つまり交付金を削減すると、通告していることがわかりました。

そして政府のいうとおり一般会計からの繰り入れを行わない場合の一人あたりの保険料は9.4%値上がりとなる試算も明らかになりました。（表参照）

## 1人当たり保険料の算定結果(激変緩和後)

令和4年度仮係数に基づく保険料算定額と  
令和3年度確定係数に基づく保険料算定額の比較

令和4年度 令和4年度仮係数に 基づく保険料算定額	令和3年度 令和3年度確定係数に 基づく保険料算定額	伸び率
172,155 円	157,351 円	9.4%

※法定外繰入による軽減を行っていないと仮定した保険料額であり、実際の保険料額とは異なります。

## 都民と自治体を苦しめる政府のやり方

これに対し和泉都議は「もしこのような値上げが行われれば、コロナ禍で苦しんでいる都民に重大な打撃になることは明らかだ。区市町村にとっても交付金が減らされるのか、値上げを行ってさらに滞納者が増えるのかの板ばさみで苦しむことになる。このような政府のやり方を認めるべきではない」と追及しました。

## 都として国保運営の責任を果たせ

都は「コロナ禍での配慮を国にもとめている」とこたえましたが、和泉都議はさらに「国に対して意見をいうことは重要だが、さきの法改正

## 「値上げは困る」被保険者代表もつぎつぎ発言

運営協議会には被保険者代表として都内各地から推薦されて委員を委託された人が5人いますが、それらの人々から「値上げは困る」との発言がきっかけになりました。

一方、和泉都議のほかに都議会代表として自民・公明・都民フアからそれぞれ都議が1名ずつ都議会代表として出席していましたが、これら

の人からはひとことも発言がありませんでした。

協議会終了後、被保険者代表委員から和泉都議に「保険料がなぜ値上げつぎになるのかよくわかりました」とお礼の言葉がかけられ、また座長をつとめた土田早大教授からは「和泉さんが来ると議論が活発になり、いいですね」と声がかかりました。

## 「国保の和泉」

2年ぶりの

国保運協復活

和泉都議は2017・2018の2年間、東京都国民健康保険運営協議会の委員をつとめました。が、各種審議会の都議会代表は大会派順の希望によるドント方式で配分されるため、日本共産党は国保運営協議会の議席を失っていました。

今年の都議選の結果、日本共産党の前進と各党の力関係の変化によって再び日本共産党の国保運協の議席が復活しました。

国保運協は利害の異なるさまざまな分野の代表から成る協議会なので、議会の論戦とはちがうむずかしさがありますが、制度の構造上の問題があると都も認めている国民健康保険制度を一步步改善していくうえで、いっかんして都民の立場にたつ共産党の発言が大きな役割を果たします。

すでに差し押え奨励の都の交付金を廃止させたり、子どもの均等割減免の流れをつくった国保問題のエキスパートである和泉都議が国保運協に復活したことへの期待がひろがっています。



日本共産党 都議会議員

和泉なおみの  
さわやかレポート

NO.64 2021.12

和泉なおみ事務所 葛飾区東立石 3-25-8

TEL 5671-0850 / FAX 5671-0851